



災害について



足立区立辰沼小学校
6年 2組

災害

災害はどんなものだと思いますか？

『災害』一言でも色々な種類があります。地震、火災、水害、噴火、大雪などがあると思います。災害は人の命を奪うものです。そしてどんなところで起きるかわからないものです。準備をしておかないといざというときに逃げ遅れたり、避難したけどその後困ってしまったりすることがあります。なので災害が起きる前にしっかり準備しておきましょう。

テーマ設定の理由

僕はパネルディスカッションで火災について調べました。でも起こる可能性のある災害は他にもたくさんあると思ったので火災以外の災害についても調べてみようと思いました。





目次

- 1 大雪について
- 2 噴火について
- 3 火災について
- 4 水害について
- 5 地震について
- 6 実施したこと
- 7 まとめ
- 8 使った本



大雪について

大雪の恐ろしさ

雪の除雪作業中に転倒したり、車が滑って、交通事故が起きたりします。雪によって死んでしまった人は年間 831 人と恐ろしい数です。

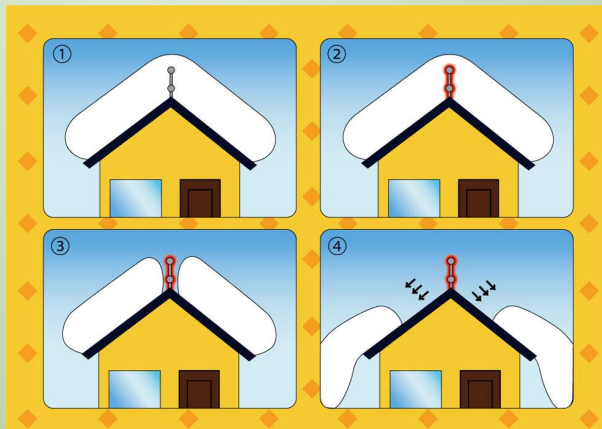


大雪のための設備

もし大雪が降ってしまったときのためにシャベルなどを用意しておくことで安心ですね



保護板をつけることで雪が当たらずに落とすことができます。



最近では、雪下ろしを人の手でやるのではなく、左の図のように雪を溶かして落とすなどの設備もできているそうです。

大雪が起こる可能性

大雪は東京では起こらないと思っている人もいるかも知れませんがそれはわかりません。実際、2018年1月22日に関東地方に大雪警報が流れたり、2017年3月26日、関東甲信の大雪があり、栃木県で高校生が巻き込まれるという事件も起きています。油断はできないのです。



何を持っていけばいいのか、どんな行動をすれば良いのか

まず、日用品一週間分、水、食料、燃料(灯油)、そして雪かきのための除雪用具スコップ、滑り止め用砂、除雪用ブラシ、防寒具、雨具、長靴、作業衣類、軍手、手袋などを準備しておくで安心です。そして、長期停電に備えて使い捨てのカイロ、予備電池、懐中電灯、携帯ラジオ、カセットコンロ、湯たんぽなどがあるとよいと思います。そして、もし大雪が起きたとしても不用意に外に出ないほうが良いそうです。正しい情報がないまま行動するのは危険です。もしどうしても避難しなければいけないことになったら転倒や降ってくる雪に気をつけて、安全に避難しましょう。もし家にいるという場合は屋根の上に積もった雪を落としましょう。たくさん積もると雪の重みで屋根が崩れることがあるからです。ただ屋根の雪を落とすのはとても危ないのでやる時は、大人と一緒にやったほうが良いと思います。



噴火について

噴火の恐ろしさ

皆さんは御嶽山を知っていますか。平成 26年、9月に御嶽山は噴火しました。日本には、このような活火山が 111個あり、噴火警戒レベルが運用されている火山は 30個もあるそうです。火山が噴火すると、大きな噴石が落ちてきたり火砕流が流れてきたりします。先程の御嶽山では、水蒸気爆発が突如発生し、火口周辺にいた登山者が多く被災したそうです。このように火山がいつ噴火するかは予想がつかないので、気をつけな

いといけません。



噴火の予想

過去に噴火していて、そのパターンがわかっていれば、ある程度は予測できるそうです。ただし、噴火の予兆は、多くの場合直前にしか現れないため、予測できるのは数時間から数日前だということです。だからこそ、もし噴火すると予想された時、すぐ行動できるように、訓練しておくことが大事だと思います。



富士山が噴火する可能性

皆さんは富士山が噴火したところを見たことがないと思います。それもそのはず。最後に富士山が噴火したのは、約300年前だからです。一方で、5600年前から今まで噴火した数は180回を超えていて平均にすると30年に一度、噴火していたとわかっているそうです。つまり、いつまた富士山が噴火してもおかしくないのです。もし富士山が噴火してしまった場合、東京にも被害が出ます。例えば、東京都新宿区では噴火してから15日間立つと、灰が10cmほど堆積し、鉄道の運休は関東地方の広範囲に広がり、東京都では、四輪駆動車以外が走行できない道路も出てきますということです。たとえ、富士山が離れていても、富士山の噴火をあなどってはいけません。

噴火したときの行動

火山が噴火すると火山灰が降ってきます。火山灰を吸い込んでしまったり、目に入ってしまうと危険なので外に出るときは、マスク、ゴーグルなどをつけましょう。小さな噴石が落ちてくると、危険なのでヘルメットがあると安心です。火山灰によって水道や電気が止まる可能性があるので水や食料、ラジオ、電池、携帯用トイレなどを用意しておきましょう。ドアや窓の隙間にテープや防じんフィルムをはって、火山灰が入らないようにしましょう。



火災について

火災の恐ろしさ

皆さんは火災を見たことがありますか。建物の火災で死んでしまった人は1146人もいて、この人数は火災による死亡者の80.3%を締めているそうです。火災は些細なことで起きてしまうので日頃の行いが大事だと思います。



火災のための設備

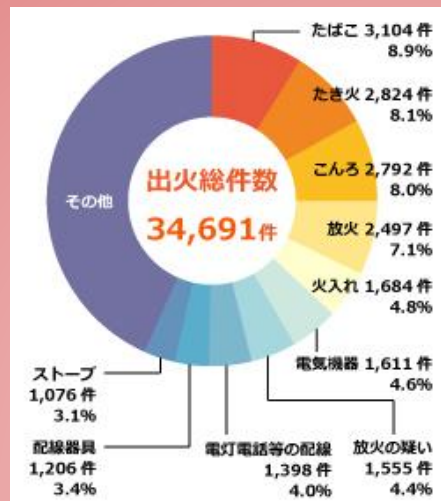
火災のための設備が皆さんの家にもあると思います。それは火災報知器です。なんでみんなの家にあるかというと2006年に義務化されたからです。火災報知器は、煙や火を感知し、知らせしてくれる道具です。

1970年、日本より前にアメリカではこの火災報知器の設置を義務付けました。これにより、住宅用火災警報器の普及が進み、現在は普及率が95%を超え、義務付け前と比べて、死者数がほぼ半分まで減少したそうです。火災報知器の他には、消火器や、普通のものに比べて燃えにくい防災品、そして地震などを感知したらすぐに火を消してくれるストーブなどがあります。色々な設備があるので是非活用してみてください。



火災の主な原因

火災の原因として一番多いのは、タバコとなっています。捨てたタバコがまだ燃えていてそれが燃え移ったりしますので、ちょっとのミスで火事につながってしまいます。その中でも注目してほしいのは配線器具です。皆さんの家では、電化製品などをたくさん使うために右の絵のようになっていますか。これをたこ足配線と言います。たこ足配線は、とても出火しやすいので気をつけてください。他にもコンセントの隙間にホコリがたまり出火してしまうこともあります。電気器具を使ったらコンセントは必ずはずすようにしましょう。



火災が起こったときの行動

もし、火災が起こってしまったなら、まず 119番に通報して『火事だ』と大声で言いましょう。窓を開け、煙を外に出しましょう。そこまで火が大きなく、消火器がある場合は、消化をしましょう。僕も体験してきましたが、結構消火器は重いです。やり方は簡単で、黄色いピンを抜き、ホースをつかんで火に向かってレバーを引きます。このとき、火がこっちに向かってきても逃げられるよう、出口を背にして、行いましょう。家に消火器がない場合は水などで無理に消化しようとせず、消火器を探しにみんなで外に出ましょう。もし火が天井まで行ってしまっていたらすぐに逃げましょう。逃げるときは姿勢を低くしてハンカチなどを口にあて煙を吸い込まないようにしましょう。ビルなどの場合は防火シャッターが閉まってしまうので、非常口のマークの誘導灯を見つけて、マークの指す方向まで逃げましょう。そこに非常口があるのでそこから逃げましょう。



水害について

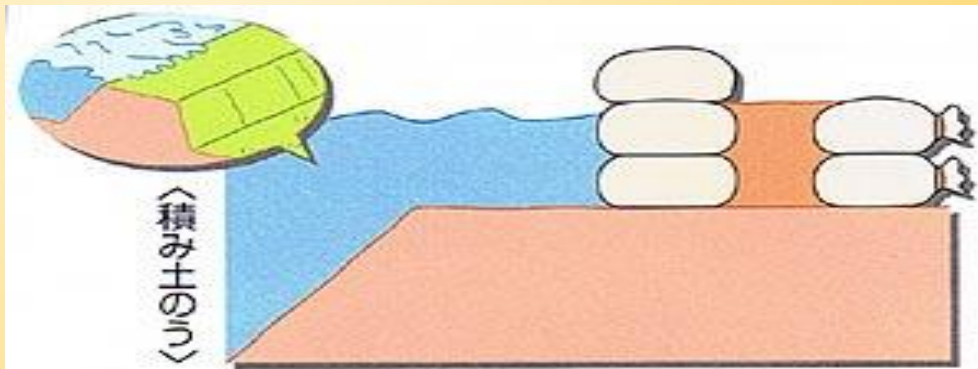
水害の恐ろしさ

毎年色々なところで、起きている水害。台風で家の屋根が吹き飛んだり、土砂災害で、道路が使えなくなったりと、たくさんの被害があります。なんと2019年の水害被害額は、2兆1500億円にもなるそうです。最近では、東京でも大雨が降ることもあります。だからこそ気をつけなければなりません。



水害のための工夫

皆さん、土のうというのを知っていますか。土のうは水害が起きたとき、家の中に水が入ってこないために、玄関に積み上げて置くものです。土のうは袋の中に土など重いものを入れて作るので水害が起きてしまった場合のために地域で土のうを作っておくということもいいと思います。他にも家を道路より高く作り、玄関前をスロープや階段で繋げておくのもいいと思います。あとは毎日天気予報などを見て、台風や大雨が来ないかチェックしておくのも大事だと思います。そして、停電してしまったときのために、ラジオや電池、懐中電灯があると安心です。もしものときのために日頃から心がけておきましょう。



水害の種類

水害と言っても色々な種類があります。例えば津波。海の水が押し寄せてきて、堤防があっても、その堤防を越えてやってくることもあります。他には川の氾濫。大雨などで水位が上がり溢れてくる場合があります。山が多いところでは、土砂崩れなどもあります。東京で一番多く起こる風水害はおもに3つだそうで、河川の氾濫、土砂災害、高潮による氾濫だそうです。地域によっても変わると思うのでは非一度、地域の防災マップなどを見てみて、自分の家はどんな水害にあうのか、調べてみてはいかがでしょうか。



水害が起きたときの行動

もし自分の家の近くの川などが氾濫してしまったり、まず、家の前に土のうなど水をせき止められるものをおきましょう。そして、濡れてはいけなものなどは二階に運びましょう。もし地下にいたらすぐに上の階まで行きましょう。そして、万が一のために、逃げ道を確保しておいてください。ドアを早く開けとかなないと水の力で開かなくなってしまうからです。そして、氾濫がおきたとき車に乗っていて下の図のようなところにいたらとても危険です。すぐ車を出すことをおすすめします。でも文章だけでは、いざというとき動けません。ですから日頃から避難訓練をしておくことが大事だと思います。



地震について

地震の恐ろしさ

皆さんは東日本大震災を知っていますか。2011年3月11日に起きた地震です。この地震による死者、行方不明者は、22199人もいるそうです。地震はたった一回でもたくさんの人の命を奪ってしまいます。でもだからって必ずしも死んでしまうわけではありません。地震が起きたときどのように行動するか、どうすれば生き残れるのか、それさえ知っていれば、少しは死んでしまう人を減らすことができると思います。今、日本では首都直下型地震が心配されています。今後30年以内に70%の確率で起こるとまで言われています。でも今気づけば遅くないはずです。東日本大震災の時みたいに、死者を出さないために、正しい知識を身につけましょう。

地震が起きる原因

地震がおきたときのために

地震が起きる原因は、主に2つです。1つは、地球の表面のプレートと呼ばれる硬い岩盤が、それぞれ違う速さで一定の方向に移動しているため、プレート同士の境界にひずみができ、そのひずみが原因で起こるもの、これを海溝型地震と言います。もう一つは岩盤に割れ目ができていてこの割れ目がずれて起こるもの、これを活断層型地震と言います。このいずれかが起きてしまったときのために家具を固定しておく、またヘルメットなど頭を守るものを用意しておくなど色々和他にもあると思うので是非家族で話し合ってみてください。

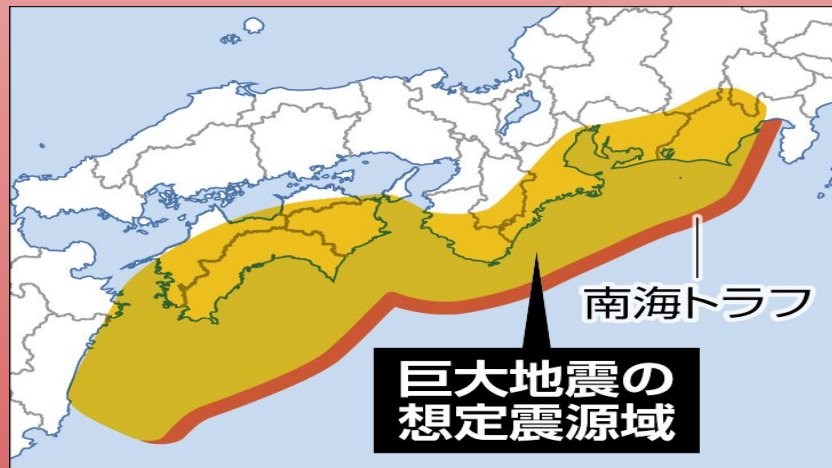


地震が起きたらどするのか

まず、物が落ちてこない場所で頭を守りましょう。もし余裕があるなら、逃げ道になるドアなどを開けておきましょう。地震でドアが開かなくなってしまうかもしれないからです。火を使っていた場合はすぐ消してください。火がどこかに燃え移ってしまうかもしれません。揺れが収まったら、ニュースなどで今がどんな状況か確認して下さい。ビルの中にいる場合、逃げるときに絶対にエレベーターは使いません。途中で止まってしまう、逃げられなくなるかもしれません。もしもっと大きな地震が来るとされた場合は避難所に行くことをおすすめします。避難場所では苦勞することも多いと思いますがみんなで助け合っていくことが大事だと思います。自分が地震のために備えているか、それだけで変わります。もしものときのために、しっかり身につけておきましょう。

地震が起こる可能性

京大名誉教授によると南海トラフ地震は 2030年から2040年の間に必ず起こると言ってもいいということです。規模は東日本大震災のときの 10倍以上だというそうです。死者は 32万人をこえると予測されているそうです。いつ起こるかわからないのが地震ですが、起きたときのために行動できるのも地震だと思います。もう二度とあんな悲惨な事が起きないために、その地域にあった避難訓練を考え、真剣に取り組みたいです。



実際にやってみて

家族で非常食を食べてみた

分けてみると、2026年に賞味期限が切れるものが多かったのも、どんどん食べないといけないと話しました。実際食べてみると非常食なのにとっても美味しくたくさん食べられました。特に美味しかったのはパスタで、麺は非常食に向いているのかなと思いました。



家の工夫

僕の家の本棚の上には固定するものがついていました。地震のために工夫がされているんだなと思いました。他にも玄関の前に階段があり、家の床は高くなっていました。色々考えて家を建てたんだなと思いました。僕が家を作るときは、今の家よりもっと頑丈で、災害に負けない家を作りたいなと思いました。



まとめ



日本にはたくさんの災害があり、いつ起こるかもわからないけど、自分や周りの人のために家族などと話し合って災害のことを考えることが大事なのだなと思った。災害のために色々な設備があることを知った。僕も災害のための設備を作りたいと思った。僕の家にはたくさんの災害のための工夫があることがわかった。大人になったとき、家を建てることになったら階段やスロープなどを作ったり、家の近くにどんな物があるのかに気をつけながら、災害に負けない家を建てたいと思った。これからも楽しく生きていくために、災害に気をつけながら、毎日を過ごしていきたいです。



参考にした本



題名 みんなの防災事典
災害への備えから避難生活まで

監修 山村武彦

借りたところ 佐野図書館